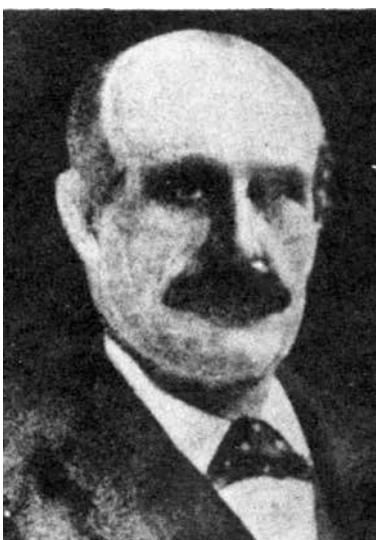


# C・S・メークの調査

明治 19 年 (1886) 開拓使(※17)にかわって北海道庁が  
つくられ、北海道を開拓するための調査が始まります。

翌年、北海道の開拓に必要な港を作る場所を選ぶために、イギリスより招かれた外国人技術者 C・S・メークが全道の沿岸を調査して歩きました。



## C・S・メーク

チャーレズ・スコット・メーク。1853 年イギリスロンドン生まれ。17 才で職人として土木工事に関わり、30 才でシャープ技師のもとで河岸改良工事などの助手をし、その後、トマス卿のもとで鉄道、橋の設計・測量をし、港湾関係のメッセージ商会に勤務。34 才の時、日本政府港湾河川技師長として日本に来た。1890 年帰国、その後も港湾、ドッグなどの設計を手がけ、1923 年 70 才で死去。

## ※17 開拓使

北海道開拓のために明治政府がおいた最初の役所。

当時人口が 300 人ほどの小さな村であった留萌も通っています。



かこう  
築港前の留萌川河口  
かこう



かこう  
昔の河口は、  
こうなっていたんだMO～！

そして、次のように報告しています。

「私は西海岸にやってきました。すでに参考資料で知っていたとおり、天塩沿岸に唯一の港らしい大きな港があることを知りました。その留萌が自然に恵まれた優位な位置と交通上の位置から考えても非常に有望な場所にあり、私が最初に報告書で指摘したとおり、天塩と石狩の間で商港(※18)としての条件を備えている留萌に匹敵する場所はないと強調したい。」

この報告が、留萌の人たちに留萌に港を作るという大きな希望を抱かせることとなったのです。

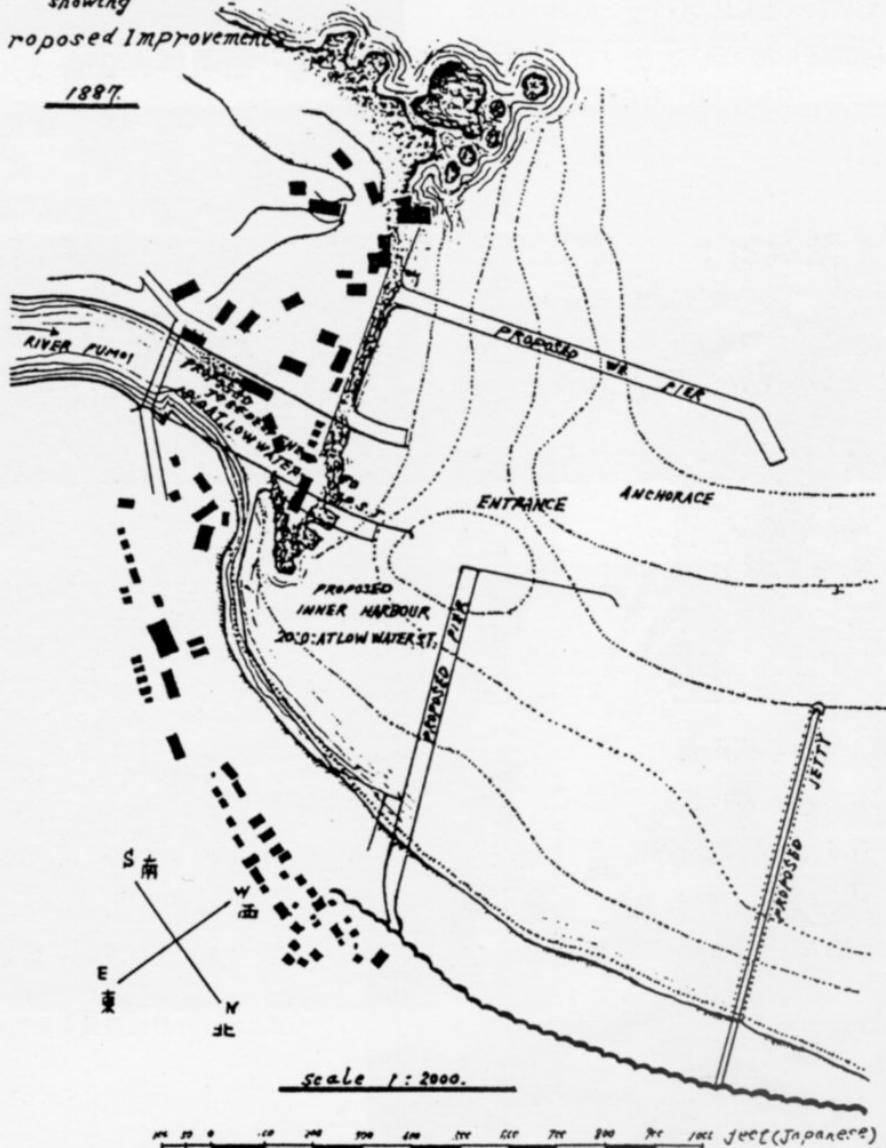
ちなみに、マークの一行が留萌で宿泊したのは五十嵐家だったといわれています。

#### ※18 商港

船を使って、荷物を行き来させる貿易港。

Plan of  
Rumoi Bay  
showing  
proposed improvements

1887.



るもいこうせつけいす  
C・S・マークの考えた留萌港設計図